

(公財)特別区協議会を通して首都の大都市行政を担う特別区を学ぶプログラム

- プログラム概要** : 特別区協議会において調査研究事業等を学び、特別区(東京23区)を知り、考える。
実習先 : 公益財団法人特別区協議会(東京区政会館4階)
実習先情報 : 特別区の連携及び円滑な自治の運営と発展に寄与することを目的に設立された法人
参加人数 : 2名
学部学科 : 政治学科、会計ガバナンス学科
実習期間 : 令和7年8月8日～8月28日
本学担当教員 : 一條義治(政治学科)、渡辺恵子(政治学科)

○実習内容

東京区政会館見学、全国連携講演会の聴講、特別区に関連するものを題材とした調べ学習、東京都公文書館見学、公文書セミナー・経営会議の準備・聴講。

○特に印象に残った経験や学び

1. 全国連携講演会の聴講

特別区全国連携プロジェクトの活動の一環である全国連携講演会に参加しました。このプロジェクトは特別区(東京23区)と全国各地域がともに発展・成長し、共存・共栄を図るために立ち上げられた活動です。私たちが参加した講演会では特別区と京都市町村が連携した活動について学びました。新宿区長や長岡京市長が仰っていた人口減少や東京一極集中、オーバーツーリズムなどの課題に対して、これからも他の地域も積極的に参加し活動していく必要があると感じました。

2. 東京都公文書館の見学

普段見られないような公文書館の裏側を見学させてもらいました。一般に開放されている場所は木材が多く使われ温かみのある空間でしたが、文書が実際に保管されている場所では文書の保管のために壁が白色で統一しており雰囲気が一変していました。また、戦後、現在の東京23区へと成長していく過程の動画や今までの東京都の歴史がまとまった文書を拝見させていただきました。

○まとめ

この実習全体を通して、公務員の仕事は、単に制度を考え、運用することだけでなく、特別区を超えて全国の地方自治体と連携して地域を盛り上げることや、重要な公文書を厳正に扱い、守り抜くことなど、多岐にわたることを学びました。調べ学習では、数ある情報の中から必要な情報を抜き出すことの難しさと、限られた時間の中で与えられた課題を完成させることの大変さを痛感しました。しかし、資料の内容を深く理解することや、質の高い報告資料を作成するための良い機会になったと感じます。特別区協議会の皆様のお陰で、学生が普段では体験できない様々な経験を積むことができ、有意義なフィールド・スタディーズとなりました。



東京区政会館屋上から



東京都公文書館外観

公文書を閲覧している様子



全国連携プロジェクト